

水戸芸術館ACM劇場プロデュース  
水戸芸術館開館 30 周年記念事業

水戸芸術館  
ART TOWER MITO

『宮崎駿の雑想ノート』より  
**最 貧 前 線**

原作：宮崎駿 脚本：井上桂 演出：一色隆司

宮崎駿のオリジナル作品 国内初の舞台化決定  
2019年夏、水戸芸術館はじめ全国で公演！



**出演：内野聖陽** ほか

©Studio Ghibli

**2019年8月末～10月**

水戸芸術館ACM劇場 世田谷パブリックシアター ほか全国6か所で上演

この公演内容に関する問い合わせ

◇ 水戸芸術館ACM劇場 TEL：029-227-8123

担当：井上桂 [katsura@arttowermito.or.jp](mailto:katsura@arttowermito.or.jp)

掲載に関するお問い合わせ

◇ 水戸芸術館広報係 TEL：029-227-8111

担当：川崎、鴨志田

## 宮崎駿のオリジナル作品 国内初の舞台化決定

水戸芸術館 ACM 劇場（芸術監督：井上桂）は、2019年夏、『宮崎駿の雑想ノート』より **最貧前線** を舞台作品として上演します。宮崎駿オリジナル作品が国内で舞台化されることは初めてのことです。水戸芸術館のほか、東京では世田谷パブリックシアターなど国内6か所を巡演予定です。（水戸市市制施行 130周年記念事業）

### 『最貧前線』とは

宮崎氏が模型雑誌「月刊モデルグラフィックス」に1980～90年代に不定期に連載した『宮崎駿の雑想ノート』。同作は、戦争の時代に兵器と人間が織りなしたドラマを描いた、連作絵物語&漫画です。そこからは、長編アニメとなった『紅の豚』が生まれましたが、この『最貧前線』はその中の11番目の物語です。

物語は太平洋戦争末期の日本。ほとんどの軍艦を沈められた日本海軍は、来襲するアメリカ軍の動静を探ろうと、苦肉の策として漁船を特設監視艇として太平洋に送り出します。乗り込んだのは、元々の乗組員の漁師たちと海軍の兵士たち。海の最前線に送り込まれた男たちは、果たして帰って来られるのだろうか・・・。

### 『最貧前線』の平和のメッセージ

『最貧前線』はわずか5ページの小品ながら、氏らしいユーモアとスペクタクルを併せ持った内容です。また、最後のコマにある「平和が何よりだノオ…」に込められた平和へのメッセージはかぎりなく重く、内容的には長編に劣らない読み応えのある作品です。氏はこの自作について、原作単行本巻末のインタビューで、当時こう語っています-「これはね、描き終わってもまだ終わってないんです、気持ちの中で。（中略）つまり“絶対に死なないぞ！”と、なんとか犬死をしないで、“また魚をとるんだ！”っていうね、そういう人達が出てきて、それを全うする話をね、僕はやってみたくて前から思ってたんです…。」

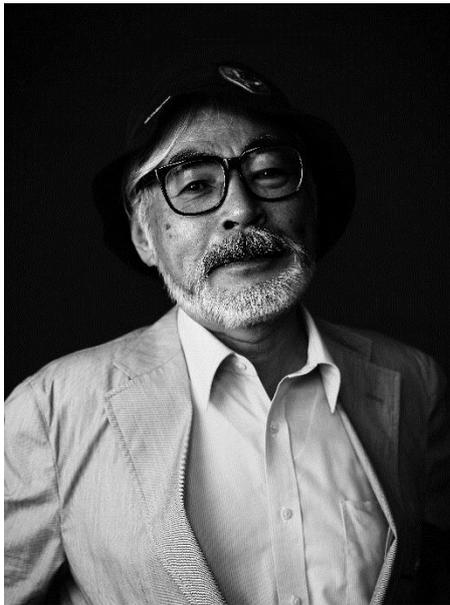
### 主演に内野聖陽

舞台版『最貧前線』の主演には、映像や舞台で幅広い活躍を続けている内野聖陽が決まりました。過酷な海の最前線に放り込まれながら、若きエリート軍人たちと対立しつつも、仲間の漁師たちを家族の待つ母港に帰そうと懸命に努力する漁船・吉祥丸の老練な船長を演じます。その姿勢は、やがて海軍将兵たちの頑な心も動かしていきます・・・。敵に、大自然に、力強く立ち向かう男たちを描いた舞台版「最貧前線」。この男たちをタフに優しく導いていきます。



### 内野聖陽（うちの・せいよう）

1993年『女たちの十二夜』で初舞台。96年、NHK連続テレビ小説『ふたりっ子』で注目を集め、大河ドラマ『風林火山』に主演するなど映像・舞台で幅広く活躍。日本アカデミー賞優秀新人賞、紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀男優賞など受賞多数。近年の出演作に、ドラマ『ブラックペアン』『琥珀の夢』、映画『家路』『海難1890』、舞台『おのれナポレオン』『ビッグ・フェラー』『東海道四谷怪談』『乳房』『ハムレット』などがある。



### 原作：宮崎 駿（みやざき・はやお）

1941年東京都生れ。学習院大学卒業後、東映動画（現・東映アニメーション）入社。日本アニメーションなどを経て、1985年にスタジオジブリ設立に参加。作品に『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『紅の豚』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』『風立ちぬ』など。著作に『シュナの旅』『出発点』『折り返し点』『半藤一利と宮崎駿の腰抜け愛国談義』『宮崎駿の雑想ノート』『トトロの生まれたところ』などがある。

## 公演概要

水戸芸術館開館30周年記念事業

『宮崎駿の雑想ノート』より

# 最貧前線

原作 宮崎 駿 「最貧前線」(宮崎駿の雑想ノート(大日本絵画刊)より)  
脚本 井上 桂 水戸芸術館 ACM 劇場芸術監督  
演出 一色隆司 NHK エンタープライズ エグゼクティブディレクター  
主演 内野聖陽  
原作掲載 月刊モデルグラフィックス  
協力 スタジオジブリ

上演日程 2019年8月末～10月

公演会場 水戸芸術館 ACM 劇場 世田谷パブリックシアターほか6か所  
—出演者、公演地、各地のチケット情報などは、後日発表します—

- ☆ 宮崎駿氏オリジナル作品の国内カンパニーでの舞台化は初めて。スタジオジブリ作品は過去に、『おもひでぼろぼろ』(高畑勲監督作品)が2011年にわらび座(栗山民也演出)で、『もののけ姫』が2013年4月英国ホール・ホグ・シアターで舞台化された。なお『魔女の宅急便』の舞台化は、角野栄子氏の原作小説に基づきいずれも行われている。
- ☆ 原作は、宮崎駿氏が月刊モデルグラフィックス誌に不定期連載していた『宮崎駿の雑想ノート』の11番目のエピソード。この「雑想ノート」からは、長編アニメ『紅の豚』が生まれている。
- ☆ 原作の「雑想ノート」は、1995年～96年にラジオドラマになっている。のちにCD化。

### 水戸芸術館

1990年に開館した日本で最初に芸術監督制度を導入した施設。水戸市の市制100周年を記念して設立され、初代館長は吉田秀和氏、二代目館長には小澤征爾が就任。ACM劇場のほかにコンサートホールATM、現代美術ギャラリーを有する。2019年は開館30周年となる。

### 脚本：井上桂(いのうえ・かつら)

2017年4月、水戸芸術館 ACM 劇場芸術監督に就任。1996年、新国立劇場開場時から演劇部門のプロデューサーとして活動。日本芸術文化振興会プログラム・オフィサーなどを経て現在に至る。台本化にあたっては、原作のエピソードを踏まえ、様々な文献から当時のエピソードを掘り起し、新たな物語展開や登場人物の性格付けを行った。

### 演出：一色隆司(いっしき・たかし)

NHK エンタープライズ制作本部ドラマ番組エグゼクティブ・ディレクター。1991年にNHK エンタープライズに入社。99年NHKスペシャル『世紀を超えて・ハリウッド』制作後、ドラマ部へ異動。時代劇『茂七の事件簿』『アフリカの蹄』『坂の上の雲・留学生』『そこをなんとか1・2』『紙の月』『精霊の守り人』シリーズ第三部、19年NHK正月時代劇『家康、江戸を建てる』など監督。2016年に『令嬢と召使』で舞台初演出。18年5月には『人形の家』を演出した。